

第一貨物

今期売上高700億円超へ

素早い復旧取り組み奏功

第一貨物(武藤幸規社長、山形市)の2012年3月期の売上高(単体)は、前年実績を上回る700億円超となる見通しだ。東日本大震災の発生に伴い、物量の落ち込みが懸念されたが、復旧に向けた全社ぐるみの取り組みが奏功し、上期は前年同期を上回る売上高を確保した。下期に入ってから、復興に向けた関連貨物の動きが堅調なことや收受運賃・料金の底上げが押し上げ要因となり、通期では前期比2〜3%増になりそうだ。

上期は物量の落ち込みが予想されたものの、前年同期比3・2%増となり、売上高も2%程度アップ。震災発生から1か月後には、被災したターミナルなどが完全復旧し、業績確保に寄与した。10月に入ってから復旧に向けた貨物が動き出

したことや軽油価格の高騰に伴う收受運賃・料金の見直しも進んでおり、底上げにつながる見通しだ。国際物流への本格的な取り組みも押し上げ要因となる。国内主要取引先のヤマダ電機の中国進出に伴い、ことし5月末、包装資材メ

ーカーのトライウォール(周垂桓社長、東京都千代田区)と合弁会社を設立、家電製品の一時保管・配送業務などを始めた。引き続き、通関免許を取得し、自社通関による輸出入貨物の取り扱いは開始するなど、取り扱い貨物の範囲を広げ

ていく。同社の主力事業は小口貨物を取り扱う特積輸送だが、近年では、物流業務全般を一括して請け負うロジスティクス事業を強化している。09年度以降、厚木(神

奈川県)、静岡、入間(埼玉県)などに相次いで大型拠点を開設したが、いずれも特積とロジ事業を一体化した施設とした。第一貨物の11年3月期の単体業績は、売上高689億6200万円(前の期比1・8%増)、経常利益7億7700万円(3・3%増)だった。武藤社長は下期について「物流品質向上に向けた取り組みを徹底的に追求し、業績確保につなげていきたい」としている。(高木 明)

武藤社長に聞く



の言葉をいただくことができた。当社の誇りでもある「団結力」「ひたむきさ」「不撓(ふたう)不屈」の精神が遺憾なく発揮された。私自身、全社員に定期的に現状や回復ぶりの詳細を伝えてきた。――今後、重点的に取り組む施策は何か。主力の特積事業の再構築と可能性の追求であり、何

品質追求、基本姿勢は不変
特積輸送「改革」起こしたい

としても特積輸送のイノベーションを起こしたい。ロジスティクス事業では、特積輸送との一体化とシナジー効果を図りながら業容拡大していく。――ことし3月には創立70周年を迎えた。「規模」の拡大より「品質」を追求するという基本姿勢は不変だ。定期的な人材の採用はもとよりだが、社員教育を徹底的に実施することでパワーアップにつなげていきたい。教育の効果はウソをつかない。必ず業績にはね返ってくる。極言すれば「品質追求」と「持続性の維持」となる。(高木 明)

第一貨物の武藤幸規社長は12日、本紙の取材に応じ、東日本大震災発生直後から復旧に向けた一連の取り組みについて答えた。――被災地にあつて損害も大きかった。当社および関連会社は施設や車両の損害にとどまらず、残念ながら人的な被害にまで及んだ。被害総額はなおおよそ10億円になった。――復旧に向けた取り組みも素早かった。発生直後から1週間目で6割、2週間目で7割、そして、1か月ではほぼ従来通りのサービスを提供できるようになった。手前みそだが、多くの取引先から感謝